

ヌーの大移動

アニマルフォトグラファー
トラベルライター

平 岩 雅 代

東アフリカのマサイマラ国立保護区(ケニア)と、セレンゲティ国立公園(タンザニア)とは、国境を接して続く広大な地域です。

マサイマラの面積は 37 万 3,000 エーカー、セレンゲティの面積は 364 万 6,500 エーカーで、まさに野生の王国と言っても過言ではありません。

有名なヌーの大移動は、このマサイマラとセレンゲティで繰り返されます。

毎年7月から9月下旬または10月上旬にかけて、100万頭を超えるヌーとシマウマの大群が、マサイマラに集結します。乾季の間できるだけ長い距離を移動して、少しでも多くの草を摂取するのが目的です。

ヌーは毎年2月から3月頃にかけて、次々と出産しますが、大移動には生後半年前後の子どもたちも加わります。マサイマラには、マラ・リバーと、タレック・リバーという大きな川がありますが、大移動の群れは断崖絶壁を恐くべきスピードで駆け降り、川の流れを目がけて、思い切り身を投じます。急流に押し流されそうになりながらも、大半は無事対岸へたどり着きますが、中には途中で力尽きてしまうものや、脚を折って



写真1 ヌーを食べながら数100万頭単位の移動が続く

動けなくなるもの、さらに川の中で待ち受けているナイルワニの餌食になってしまうものもあります。セレンゲティ大平原の南側を12月に出発する大移動の群れは、1月から2月にかけて南側から中心部に達します。そして雨季が終わる5月に入りますと、長い乾季の間の大行進が始まり、セレンゲティの北側から、ケニアのマサイマラへの旅が続くのです。

ヌーやシマウマを標的にしているライオンやハイエナ、その他の肉食獣のヒョウ、チーター、ジャッカルの群れを追うように、移動をしますが、最終的に自分の生活圏(縄張り)に戻ります。



写真2 必死に川を渡るヌー

セレンゲティの南側から、マサイマラへ向かい、再びセレンゲティへ帰る大移動の距離は、およそ 800 キロメートルに達し、大群が移動する時、その群れは時に 40 キロメートルも続くことがあります。

ヌーは日中の日射しが強い時間帯に木陰などで休憩をし、草を食べたり水を飲んだりしながら黙々と移動をするのです。

毎年 7 月から 9 月には、ヌーの大移動、特にハイライトといわれる川渡りを一目見ようと、世界各国から多くの写真家や観光客が、ケニアのマサイマラを訪れます。

しかし、ほとんどの場合は川渡りを見ることができず、マサイマラをあとにすることになります。決定時瞬間をものにしようと、昼の弁当(ロッジで作ってもらうピクニックランチと呼ばれるサンドイッチ、ゆでたまご、フルーッなど)を持参し、丸一日車の中でチャンスを待っていても、幸運はそれほど簡単に訪れません。

実際のところ、多くのプロ写真家や、アマチュア写真愛好家達がヌーの川渡りを撮影しようと、マサイマラに滞在しますが、首尾良く成功した人は多くありません。今夏、私

はマサイマラを 2 度訪れました。

最初は 7 月の下旬、次は 9 月の中旬でした。そして二度とも、大移動のヌーの群れの動きのあるシーンの撮影に成功しました。

7 月の時はセレンゲティからマサイマラに向かって移動してきたヌーが、マサイマラのさらに奥へとサンド・リバーと呼ばれる川を渡り、猛スピードで走り抜ける場面でした。大群の迫力に圧倒されながらも、夢中でシャッターを切り、幸運に感謝せずにはいられませんでした。

ところが、9 月に再びマサイマラを訪れた時には、マラリバーの北側に集結したおびただしい数のヌーとシマウマが、私たちの乗った車のとまっている南側の様子を、しきりに気にしていました。30 分程その群れを見守っていたところ、シマウマが急な崖を降り始め、川の中に身を踊らせ、こちら側に向かって泳ぎ始めたのです。先頭に続いて、次から次へとヌーは勢い良く川に飛び込み、対岸を目指して泳いで来ました。無事に川を渡ることができたヌーは、まだ到着しない仲間を心配そうに見守っている様子でした。

それにしても長年お世話になっている経験豊富なドライバーガイド氏の冷静な判断なしには、この川渡りの撮影の成功は、有り得なかったことでしょう。

▶平岩父娘アフリカ動物写真展=11月15日(金)~12月3日(火)まで、フォトスペース光陽(JR市ヶ谷駅下車、徒歩3分、電話 3316-6234、FAX 3312-7558)で毎日午前10時~午後6時半まで開催。期間中無休。会場には毎日平岩父娘が出席、質問に答える。